

消化管運動と機能性消化管疾患

六君子湯の胃弛緩能に対する効果 —対外式超音波検査を用いた評価—

○原 陸展¹⁾，春間 賢²⁾，楠 裕明²⁾，畠 二郎¹⁾，茶山一彰¹⁾
 広島大学大学院分子病態制御内科学¹⁾，川崎医科大学消化器内科Ⅱ²⁾

はじめに

六君子湯（TJ-43）は，食欲不振や腹部膨満感を訴える患者に有効であり，薬理作用としては消化管運動亢進作用などが明らかになっている。

今回我々は胃の弛緩反応に着目し，非侵襲的な検査装置である体外式超音波（US）を用いてTJ-43の近位胃弛緩反応に対する効果を評価検討した。

健常人における検討

【目的】USで近位胃断面積を測定することにより胃の弛緩能の評価法を確立し，加えてTJ-43の効果について検討した。

【対象】健常男性5名。平均年齢は39.5歳。

【方法】空腹時に液体試験食を経鼻胃管から5分毎に100mlずつ投与し，USを用いて近位胃断面積を計測した。同時に三方活栓で垂直方向に接続した水柱管によって胃内圧を計測した。その後TJ-43を7日間投与し，再度同様の計測を行った。

【結果】試験食投与量の増加に比例して近位胃断面積は増加し，100ml～1000mlでの内圧はほぼ一定値を呈した。TJ-43投与後は，1000mlの試験食負荷時の近位胃断面積は88.8cm²から100.9cm²へと増加し，内圧は低下した。

FD患者における検討

【目的】FD患者の胃弛緩能に対するTJ-43の効果をUSにより評価した。

【対象】FD患者10名（男性6人，女性4人，平均年齢54.8歳）。

【方法】空腹時に水を100mlずつ，計500ml飲用し，100ml毎に臥位にて近位胃断面積を計測した。併せて，0ml，300ml，500mlの飲水時に腹部のもたれ，腹部膨満感，吐き気，胸焼け，上腹部痛の各項目について，なし，軽度，中等度，高度と4段階で評価した。全例にTJ-43を2週間投与後同様の検査を行い，前後で比較検討した。

【結果】FD患者では健常人と比較し，500ml飲水時の近位胃断面積は有意に低下していた（健常55.1±11.1cm²，FD40.1±14.6cm²， $p<0.05$ ）。TJ-43投与により500ml飲水時の近位胃断面積は10例中8例で増加した（前40.1±14.6cm²，後52.1±21.8cm²， $p<0.04$ ）。また，自覚症状は改善を認めた（前3.7，後2.6）。

まとめ

健常人において，TJ-43投与後に近位胃断面積増加と胃内圧低下が認められたことより，本剤は近位胃弛緩能を亢進させることが示された。また，TJ-43はFD患者の低下した胃貯留能を改善させる事により症状改善に有効な薬剤と考えられる。